

# 令和 4 年度 園評価書

園番号 9

園名

田町こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心も体も元気な子	考えを伝え夢中になって遊ぶ	色々なことに興味を持ち、「なぜ?」「どうして?」と考え、試したり工夫したりして遊びを展開している	・保育者が子どもたちが自ら考えることができるような言葉のかけ方を意識したことで、「こうしてみたい」「どうしたらいいかな?」と自分で必要なものを考え、試したり工夫したりする姿が見られた ・子どもたちの表情を見たりその時の気づきに合った環境を用意し、調べたりすぐに試すことができるような環境の再構成をすることで、遊びが次の日にもつながっていった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染の不安から子ども同士の交流の機会も限られたものになったとおもう</li> <li>・子どもが思いを表現できるよう、先回りをするのはなく、言葉を引き出す支援を常に意識し、実践されていて、とても良いと思う</li> <li>・重点目標の「考えを伝え」「夢中になって」の子どもの姿を意識した保育活動が計画され、職員の共通理解が図られている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦のつながりを意識して保育を行ったが、交流が薄れてしまっていると感じる。園庭の遊び環境をより充実し、全体で取り組むことができるよう考えていきたい</li> <li>・乳児クラスでは「なぜ?」「どうして?」の前の「やってみよう」を引き続き意識していきたい</li> <li>・子ども主体とし、「どうして?」と考えることができるような問いかけを行い、自分の思いを伝えたり、友だちの思いを聞くことができるようなかかわりを継続していく</li> <li>・挨拶は毎日の積み重ねが大切なもので引き続き、保育者が笑顔で積極的に子どもたちに挨拶をしていく</li> </ul>
		自分の思いを表現したり相手の思いを聞いたり共感したりしながら遊ぶ経験を積み重ねる	・日々の保育の中で、子どもたちがどのようなことをやってみようか、そのためにはどうしたらいいのかを、子どもたち自ら考え思いを表現し、伝え合うことができるようなかかわりを意識した。子どもたちは皆で取り組み、成功体験を重ねたことで自信につながった	B	A		
		季節や場にあった、明るく元気な挨拶をする	・降園時、迎えが来たらクラスの皆に「さようなら」と伝える機会を設けた。繰り返し声をかけることで、子どもたちから「さようなら」と伝える姿が乳児クラスでも見られるようになって来ている	B	A		

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの発達や経験などを十分に把握し、一人一人に合わせた適切な援助を行っている	・卒園までに育てほしい10の姿を意識して保育を行ったことで、発達を捉えながら、遊びの展開を予想したり、提供したりする意識が定着してきた ・保育の経過をできるだけ職員全員で共有し、チーム田町の一人として丁寧な保育をする意識が高まった	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「10の姿」を意識した取り組みが充実している。目指す子どもの姿が全体で共有できていることが素晴らしいと思った</li> <li>・職員間の情報共有をとても大切にしている。子どもたちの安心、安全が保障されている</li> <li>・環境を子どもの思いや実態に合わせて変化させるという考えが良いと思った</li> <li>・送迎バスのニュースを受け、安全への注目が高まった中、園内の研修を行うなど、しっかりと対応できている</li> <li>・感染対策を講ずること、最新の情報をキャッチすること、大変ですが引き続き行って欲しい</li> <li>・個々に目を向け、適切な支援を考え、実践していくことは大変であり、また園に期待することも多いと思う。関係機関との連携を図りながら全体で支援方法を考えていくことを継続してもらえたらと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の連携を図り、同じ関わりができるよう話し合い、職員会議やもくもくトークなどを利用し他のクラスにも発信していくことを継続する</li> <li>・各クラスにある玩具の見直しの機会を設け、環境改善につなげていく</li> </ul>	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	個々の生活リズムの違いを踏まえて、子どもたちが主体的な生活が送れるようにしている	・一人一人の体調の変化や、保育時間の違いに応じて、職員間で声を掛け合い、遊びが進められるようにした ・早番から遅番までの遊び環境や、異年齢が一緒に過ごす方法について話し合い、その都度改善を行っている ・保護者と情報を共有しながら、子どもたちが無理なく快適に生活できるようにした	B			A
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの発想を十分理解し、楽しんだり工夫するための環境が用意されている	・子どもたちが選択できる環境と、遊びの中での気づきを見逃さず再構成を意識して関わった。子どもたちは満足し片付けまで行う姿が増えてきた ・可動式の遊具（マルチパネ・タイヤ・コンテナ）を整えたことで、考えたり、試したりしながら主体的に遊ぶ姿が増えてきている	B			A
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	計画的に訓練を実施し、ヒヤリハットの担当者を中心に振り返りの時間を持ち、危機意識を高める	・様々な事故を受け園内で研修を行い、子どもたちへの接し方や登園時の人数確認、降園時の人数確認の方法、出席確認が取れなかった子への連絡方法等検討、改善を行った。また、保護者に向けても出席確認の方法について発信した ・日々のヒヤリハットを職員だけでなく、幼児組では子どもたちとも共有することで、未然に事故を予防することに努めている	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員不足は大変だと思う。最重要課題を意識し、できること、できないことを把握し、協力して取り組んでいく必要があると思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の連携を図り、同じ関わりができるよう話し合い、職員会議やもくもくトークなどを利用し他のクラスにも発信していくことを継続する</li> <li>・各クラスにある玩具の見直しの機会を設け、環境改善につなげていく</li> </ul>	
		(1)健康管理の充実	手洗いやうがいなど繰り返し知らせていくことで、健康に過ごすための基本的な生活習慣が身につけている	・個々の発達に合わせ、手洗い等日々繰り返し取り組むことで、乳児組の子どもたちも少しずつ自ら行うことができるようになってきている。幼児組では帰りの会や手洗いの時に上手な子を紹介したり、絵本を使って手洗いの方法を子どもたちと確認しながら実施した ・食育活動の一環として野菜を育てることを通し、食べることの大切さを伝えている	B			A
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	子どもの姿を分析し手立てを探り、共通の意識を持ち支援している	・ハムタロウの会を開催することで個々の良い面を見ることができたり、達成感や満足感を味わうことができる活動内容から、自信につながっている ・「みんな一緒」ではなく個々の成長を願いながら関わっている。また、職員が一人で支援方法を考えるのではなく、チームとして様々な方法を考え支援を行っている	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中で保育教室など地域の方と一緒にやることができなかったことは残念だったが、次年度は保育教室や世代交流会などできる方法を考えてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な素材を知り、どのような活用方法があるのかを学び、継続して子どもたちに提供していく</li> <li>・必要なものを子どもたちと一緒に考えたり、視覚化したりして発想が広がるような環境作りをする</li> </ul>	
		(1)組織体制の充実	責任をもって分掌に取り組むと同時に、連携をとり、全員で進めるという意識を持つ	・職員一人一人が責任を持ち、自覚して仕事に取り組んでいるが、時として役割を認識しつつも、うまく指示を出すことができないこともあった。そこで、お願いボードを活用することで少しずつ仕事分担の連携、効率化を図ることができた	B			B
6 研修	(1)研修体制の充実	公開保育を実施し、自分からやってみたくなる環境作りについて話し合い、保育改善に努めている	・公開保育の参加者を少人数で行うようにしたことで、事前、事後検討での話し合いの内容が深まり、職員の学びにつながった ・公開保育を行う中で室内外の環境についての課題が明確化され、園庭の環境改善につながっている ・研修報告や研修新聞を通して、参加していない職員にも学びが共有されている	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員だけでなく、他の職員もグループ指導に参加する機会を設ける。また、写真や動画を使いながら職員会議で伝え、職員間で共有、特別支援教育・保育の充実をはかる</li> <li>・引き続き子どもの生活環境を理解し、宗教、言語等への配慮の有無を職員間で共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いやうがいを行う姿を見取り、毎月食育の日を確認の日として、継続的に正しい手の洗い方やうがいの仕方を伝えていく</li> <li>・感染症の予防については最新の情報を取り入れながら引き続き行っていく</li> </ul>	
		(1)教育・保育環境の充実	指導計画をもとに評価・反省をし、見直しを持って、教材準備や環境設定をする	・計画、実行、評価、改善を意識して取り組んでいる。「こうしてみよう」と思ったことを実践し、改善を行っている ・年長組では何をしたいのか、どのように取り組むのか等行事について子どもたちと相談しながら準備を進め、子どもたちの思いの実現に向けた教材の準備をおこなっている	B			B
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	登降園時に様子を伝えたり、園での取り組みをボードやドキュメンテーションで保護者に発信し、子どもの育ちを共有している	・今年度は参加会を開催することができ、こども園の様子を保護者の方に見ていただく機会となった ・クラスだよりやボード、発表会でのパワーポイントでは「卒園までに育てほしい10の姿」を意識的に保護者に発信し、育ちを伝えている ・感染症の流行状況についてはメールを活用し保護者に発信している	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントを絞った話し合いの中で学びを深めていく</li> <li>・自らの感覚とは違う新たな視点に気付くことができるよう、直接的・間接的な研修の参加を継続していく</li> <li>・週に一度職種に関係なくクラスの様子や悩んでいることなどを話す機会を継続していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き子どもの言葉やエピソードをお便りやボード、送迎時等に家庭に伝えていく。また、発表会や特別支援保護者参加会では継続してパワーポイントを作成し活動の様子をわかりやすく発信していく</li> <li>・行事や遊びの姿だけでなく、身支度などの日常生活の場面についても写真を使用し発信していく</li> </ul>	
		(1)近隣の園との連携の推進	近隣校・近隣園の公開授業や公開保育に参加し、情報を提供しあい連携を深めている	・年長児が番町小学校に出かけ、学校体験をしたことで、学校の様々な場所を見ることができ、就学に向けて期待が高まった ・近隣校の公開授業や体験授業に参加し、環境やかかわりについて積極的に取り入れるようにした。また、公開保育を開催したことで情報を共有し連携を深めることができた ・学区の公立こども園代表として末広学園に参加し、小中学校につながる園での取り組みを伝えた	B			A
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域と交流する機会をもち、地域の園として親しまれる園作りをする（積極的な挨拶、おしゃべりサロン、世代交流等）	・おしゃべりサロンでは、年長児が関わりながら作った手作りおもちゃのプレゼントを配布したり、幼児クラスの発表会の様子をパワーポイントで紹介する機会を設け、地域との交流を深めた ・西部学習交流館での「ちびっこ絵画展」に参加し、地域の園として親しまれるように努めた	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の状況を見ながら、おしゃべりサロンでは園児との交流を計画していく。また、動画による紹介の機会も継続して行う</li> <li>・世代交流会、保育教室は感染症対策を行いながらできる方法を考える</li> <li>・散歩時には挨拶ができるようにし、常に地域の方が見守ってくれているという意識を持ち、言動に気を付けていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間での交流の場を作り情報交換を行っていく</li> <li>・近隣園、近隣校との交流や情報交換を機会あるごとに積極的に行っていく。また職員や保護者にも発信していく。</li> </ul>	